

事例 7 社会への関わり方を選択・判断する事例

○学年 第5学年

○主な領域 内容(5) ア(イ)、イ(イ) わたしたちの生活と森林

○事例のポイント

- ①社会に見られる課題(国土の環境保全)について、自分たちの生活との関連について問い直すことで課題を自分事として捉えられるようにする。
- ②調べる・まとめる過程で追究・解決してきたことを生かして、社会への関わり方を選択・判断できるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

①共同編集ソフトの活用 ②オンラインによる聞き取り調査

ICT活用の利点

- ①小グループで協働的に調べたことを共有することができたり、小単元の学びを一目で把握できるように蓄積することができたりする。
- ②遠方の当事者の様々な取組について、静止画・動画の視聴や当事者の方とのオンラインでのやり取りをとおして具体的に捉えることができるようにする。

1 小单元名 「わたしたちの生活と森林」(7時間)

2 小单元について(略)

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

我が国の国土の自然環境と国民生活について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、国民の一人として、森林資源を保護していくことの大切さを考えようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林資源の分布や働き、保全のための取組などについて、地図帳や各種の資料で調べ、国土の環境を理解している。	①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見だし、我が国の国土の自然環境と国民生活について考え表現している。	①我が国の国土の自然環境と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②我が国の国土の自然環境と国民生活について調べたことを図表や文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な	②我が国の国土の自然環境と国民生活について、比較・関連付け、総合などして、森林資源が果たす役割を考えたり、国土の保全に関わって、自分たちにできることなど	②国土の環境保全に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。

工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	を考えたり選択・判断したりして、表現している。	
---------------------------------------	-------------------------	--

4 小単元の指導計画・評価計画（8時間）

過程	○主な学習活動 ・ 学習内容	【評価の観点】 内容＜方法＞ ※網掛けは評価した結果を記録に残す場面	資料等
つかむ	①森林資源の分布やわたしたちが受ける恩恵など、森林資源とわたしたちの生活とのつながりについて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・森林資源の分布 ・森林資源とわたしたちの生活とのつながりを考えること ・学習問題を導き出すこと	【思・判・表①】 森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見いだし、我が国の国土の自然環境と国民生活について考え表現している。 〈発言・ノート〉	・国土に占める森林の割合グラフ ・世界の主要国の国土に占める森林の割合グラフ ・林間学校時の写真
	学習問題 森林は、どのような働きがあり、わたしたちの生活とどのようなつながりがあるのだろうか。 ・予想を出し合い、学習計画を立てること ICT活用の利点① 学習計画を立てる際に、共同編集ソフト（Teams など）を活用し、調べていくことのよさを共有することによって、学びを蓄積することができるようにする。 ②国土の天然林の分布や働きについて調べ、ノートなどにまとめる。 ・世界自然遺産に登録された白神山地 ・天然のぶな林 ・天然林の分布や働き	【態度①】 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 〈発言・学習カード〉 【知・技①】 天然林の分布や様子などについて、地図帳や各種の資料で調べ、天然林の働きを理解している。 〈発言・ノート〉	

調べる	③④国土の人工林の分布や働き、管理や活用に関わる人々の工夫や努力について調べ、ノートなどにまとめる。 ・天然林と人工林の違い ・人工林の分布と働き ・西栗倉村の取組 ・管理や活用に関わる人々の工夫や努力 ・間伐材の活用 ・木材の循環利用 ICT活用の利点② オンラインでの聞き取りをすることのよさを共有することによって、具体的に事象を捉えることができるようにする。	【知・技①】 人工林の分布や様子、管理や活用に関わる人々の工夫や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べ、人工林の働きや保全のための取組を理解している。〈発言・ノート〉	・秋田杉の様子の写真 ・人工林の分布図 ・間伐材製品 ・木材の利用循環図
	⑤わたしたちの生活の中にある様々な森林の働きについて調べ、ノートなどにまとめる。 ・生き物にとって大切な場所であること ・土砂崩れなどを防ぐこと ・水をたくわえること ・木材として活用されること ・防風林、防砂林、防雪林	【知・技②】 森林の働きについて、地図帳や各種の資料で調べ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。 〈発言・ノート〉	・森林の働きの図

⑥ノートなどにまとめたことを基に、学習問題について学級全体で話し合い、学習問題に対する結論を導き出す。その後、国土の環境保全に関わる社会に見られる課題を取り上げ、自分たちにできることを考える。

- ・学習問題について、学級全体で話し合うこと
- ・学習問題の結論を導き出すこと

【思・判・表②】

我が国の国土の自然環境と国民生活について、比較・関連付け、総合などして、森林資源が果たす役割や、自分たちにできることなどを考え表現すること。
〈発言・学習カード〉

- ・前時までに扱ってきた資料
- ・林業従事者の減少グラフ
- ・放置林が増加している理由
- ・表層崩壊写真
- ・解決策構想シート

【学習問題の結論（例）】

- ・森林資源は、私たちが上手に関わらないと成り立たず、私たちの生活にも影響が出る。
- ・森林は私たちの住む国土を保ってくれる大切な役割を果たしていて、そこから恩恵を受けている私たちは、森林ときちんと関わっていかなければならない。

- ・木材の循環利用が成立しなくなっている現実
- ・林業従事者の減少
- ・放置林の増加が表層崩壊の一因となっていること

事例のポイント①

表層崩壊などの社会に見られる課題を自分の生活と関連させることで、課題を自分事として捉え、解決策を考えることができるようにする。

⑦国土の環境保全に関わる社会に見られる課題の解決に向けて、自分たちにできることを選択・判断し林業従事者の方に提案する。

- ・自分たちにできることを検討し、選択・判断すること。
- ・問題解決のために、自分たちにできることを林業従事者の方に聞いてもらうこと。
- ・林業従事者の方から提案についてアドバイスをもらい、自分たちの案を見直すこと。

【態度②】

国土の保全に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。〈発言・学習カード〉

事例のポイント②

木材の循環利用の取組を想起することで、調べる・まとめる過程で追究・解決してきたことを生かして、社会への関わり方を選択・判断できるようにする。

5 本時の学習指導（6／7時間）

(1) 目標

- ・我が国の国土の自然環境と国民生活について、比較・関連付け、総合などして、森林資源が果たす役割や、自分たちにできることなど考え表現すること。〈思考・判断・表現〉

(2) 展開

○主な学習活動 ・学習内容	・指導上の留意点 評価 <方法>	資料等	時間
1 前時までの学習を整理し、学習問題について学級全体で話し合い、学習問題の結論をまとめる。 ・調べてきたことを整理すること（森林資源の果たす役割、人が積極的に関わることで森林資源として私たちの生活にも恩恵をもたらしてくれるなど、私たちの生活と密接なつながりがあること） ・学習問題の結論をまとめること	・前時までに扱ってきた資料を用い、調べてきたことを整理して視覚的に捉えることができるようにする。 ・結論は、これまでの児童の学び方の実態に応じて、文だけでなく図などを用いてもよいこととする。	・前時までに扱ってきた資料	15
【学習問題の結論（例）】 ・森林資源は、私たちが上手に関わらないと成り立たず、自分たちの生活にも影響が出る。 ・森林は私たちの住む国土を保ってくれる大切な役割を果たしていて、そこから恩恵を受けている私たちは、森林ときちんと関わっていかなければならない。			
2 木材の循環利用がうまくできていない現状を取り上げ、さらに考えていくべき課題を見いだす。 ・林業従事者の減少 ・放置林の増加が表層崩壊の一因となっていること ・木材の循環利用がうまくできてなくなっていること ・課題を捉えること	・既習事項と木材の循環利用がうまくできていない現状とのズレについて問いかけ、国土の環境保全に関する「社会に見られる課題」をつかめるようにする。 ・林業従事者の減少がどのようなことにつながっていくかを考えることで、課題を捉えることができるようにする。	・林業従事者の減少グラフ ・放置林が増加している理由 ・表層崩壊写真 ・解決策構想シート	8
課題 森林資源を維持管理して国土を保つために、自分たちにできることは、どのようなことがあるのだろうか。			

3 前時までの学習（西栗倉村の取組）を基にして、自分たちにできることを考える。 ・自分たちにできることを考えること ・木材の循環利用を続けるアイデア ・林業従事者を支える行政の援助 ・国民がこの課題に関心を寄せること	・解決策やその理由を書き込むことで、自分たちの生活に関連して捉えることができるようにする。 ・西栗倉村での取組を基に、解決の方向や自分たちにできそうなことについて、小グループで考えるようにする。 【評】 我が国の国土の自然環境と国民生活について、比較・関連付け、総合などして、森林資源が果たす役割や、自分たちにできることなどを考え表現すること。 【思・判・表②】 ＜発言・解決構想シート＞ ⇒B 規準に達しない児童への支援方法 既習を振り返ったり、友達と考えを交流したりするよう助言する。	20
4 次時の学習の流れを知る。	・次回の前半は、本時の続きについて考え、後半は、林業従事者の方へ考えたことを聞いてもらうということを伝える。	2

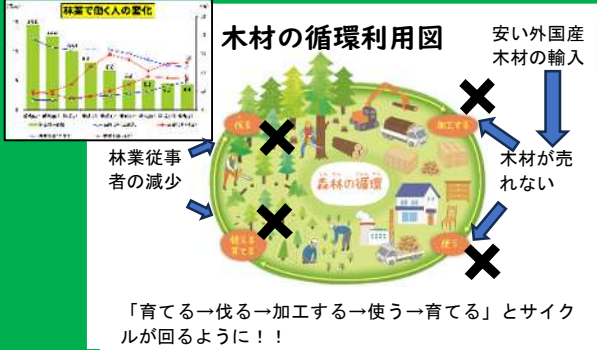
6 板書計画



森林の働き図 管理できないと様々な問題が・・・

森林をしっかりと管理していくことが大切

恩恵
豊かな水
木材
生き物 等



木材の循環利用図

安い外国産木材の輸入
木材が売れない

林業従事者の減少

「育てる→伐る→加工する→使う→育てる」とサイクルが回るように！！

5年〇組 学習問題の結論

- ・森林資源は、私たちが上手に関わらないと成り立たず、自分たちの生活にも影響が出る。
- ・森林は私たちの住む国土を保ってくれる大切な役割を果たしていて、そこから恩恵を受けている私たちは、森林ときちんと関わっていかなければならない。

課題 森林資源を維持管理して国土を保つために、自分たちにできることは、どのようなことがあるのだろうか。

解決策構想シート(解決策・その理由)

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

本事例は、国土の森林資源の分布や働き、保全のための取組について学習した後に、「木材の循環利用がうまくできなくなっている」という切り口で、社会への関わり方を選択・判断するという実践を行った。これまでの選択・判断の実践は、社会的事象について問題意識をもち、自分事として捉え、考える内容になっていなかったり、それまでに追究・解決してきたことを生かすことなく、生活経験や世間一般論的な解決策を基にして考えるだけの内容になっていたりするものが多くあった。そこで、本事例では、そのような課題を克服できるように、事例のポイントを2つ設定して実践を行った。

- ① 国土の環境保全に関わる、社会に見られる課題を取り上げることで、社会への関わり方を自分事として捉え、考えることができるようにする。

第6時では、林業従事者の減少グラフを基に、既習事項（木材の循環利用がされていること）と国土の環境保全に関して社会に見られる問題（木材の循環利用がうまくできなくなっていること）とのズレについて考える活動を行った。その活動を通して、「森林が適切な状態でないため、災害など様々な問題が起こっている。」というような共通課題を見いだすことができた。

- ② 調べる・まとめる過程で追究・解決してきたことを生かして、社会への関わり方を選択・判断できるようにする。

第6時では、調べる・まとめる過程で追究・解決してきた森林資源の分布や働き、保全のための取組を、木材の循環利用の図で整理した後に、学習問題に対する結論として表現した。その後、木材の循環利用をこれからも続けるために、自分たちにできることを解決策構想シートに理由を明確にして表現する活動を行った。その活動を通して、これまで、追究・解決してきたことと自分たちの生活との関連について問い直すことで、森林という遠いと思われがちな社会的事象への関わり方を自分事として捉え考えることができた。また、第7時では、児童が構想した解決策やその理由を林業従事者の方に聞いてもらい、学習を価値付けてもらうことで、小学生としての社会への関わり方や今後のこのような学習の推進の必要性について捉えることができた。



解決策構想シート(解決策・その理由)

- 私は、木材の循環利用がうまくできなくなっている一番の原因は従事者の減少だと思っています。西栗倉村の人たちは、この現状を受け止めて、解決策を考えている成功者たちだと思います。なので、森林管理事務所の人や西栗倉村の人が言っていたように、頑張って後継者を集めていく必要があると思いました。具体的な策は思いつかないけど、私たちもまず、森林について関心をもつことが大切であると思いました。

林業従事者に解決策とその理由を伝えている様子と
作成した解決策構想シート

第6・7時で児童が作成した解決策構想シート。「木材製品を積極的に購入する。」「緑の羽募金活動に参加する。」といった具体的な案を考える姿が見られた。また、木材の循環利用がうまくできていないことについて、課題を知ることの大切さに気付いたり、既習事項とつなげて解決策を考えたりする姿が見られた。

I C T 活用の利点「①共同編集ソフトの活用②オンラインによる聞き取り調査」について

- ① 小グループで協働的に調べたことを共有することができたり、小単元の学びを一目で把握できるように蓄積することができたりする。

小単位を通して、Microsoft PowerPoint と Microsoft Teams を活用し、学習内容を小グループ内で共有しながら、協働的に調べる活動を行った。その活動を通して、これまでの学習内容を蓄積していくことで、まとめる過程の際に、あまり時間をかけることなく、学習問題に対する結論を導き出すことができた。



児童が作成した Microsoft PowerPoint のスライド

- ② 遠方の当事者の様々な取組について、静止画・動画の視聴や当事者の方とのオンラインでのやり取りをとおして具体的に捉えることができるようにする。

第3・4時では、国や埼玉県の実践について、埼玉県森林管理事務所の方とオンラインでつながり、保安林の整備や林業従事者の育成などの具体的な取組内容について聞いたり、国有林と民有林の違いや埼玉県内の国有林の所有者などの児童一人一人の素朴な疑問に対して、応答してもらったりすることで、具体的に事象を捉えることができた。また、岡山県西栗倉村の実践について、取組を支えてきた方とオンラインでつながることによって、「西栗倉・森の学校内の木材加工場所」を見学したり、実際に売られている鹿の角やハチミツなどの商品の実物を見たりすることで、視覚的・具体的に事象を捉えることができた。さらに、授業後も他の児童が質問したことを録画で見て、情報を追加したり、整理したりする児童も多かった。



オンラインで施設内を見学している様子

西栗倉村の実践についてオンラインで聞き取り調査を行った。児童の質問に応じて、実際の木材製品を見せてくれたり、西栗倉・森の学校内の木材加工場所を案内してくれたりした。

(2) 実践に当たっての留意点

社会への関わり方を選択・判断する際には、社会に見られる課題を自分事として捉えることが大切である。そのために、本実践では森林と自分たちの生活のかかわりについて捉えさせたいうえで選択・判断する場面を設けた。さらに、西栗倉村の事例で調べてきたことを生かして選択・判断できるような指導の工夫を行った。「自分に何ができるか。」という視点から、社会への関わり方を選択・判断させるためにも、生活と関連付けたり学んだことを生かすことができたりする指導の工夫が必要である。